

| 町のうごき | |
|--------|--------------------|
| 本籍数 | 5,710 |
| 本籍人口 | 17,271 |
| 世帯数 | 4,727 (4,725) |
| 住民登録人口 | 17,582 (17,553) |
| 内 男 | 8,591 |
| 内 女 | 8,991 |

9月1日現在
()内は8月1日現在

広報 てくつ

No. 216

昭和55年

10月1日発行

発行・秋田県天王町役場 電(018878)2211~4
編集・企画室 印刷・秋田協同印刷 電(0188)237477~8

長寿おめでとう 健康で楽しい一日

—9月12日に敬老会—

九月十二日 町恒例の敬老会が町公民館を会場に行われた。

当日は朝早くから見えられた方もあり、年一回の敬老会が何よりも楽しみとか。

昨年は、会場も多少余裕があつたが、今年は迎えのバスが到着するごとに会場も満員にふくれあがり、約五百四十名が出席。

今年、八十歳でハトづえを贈られた方は二十六名、また、本町の長寿ナンバーワンの羽立の鈴木サタさんも元気に敬老会に出席された。

来賓の方々から「みなさんは、明治、大正、昭和と歩んでこられたわけですが、まだまだ若い長寿日本一を目指して元気に頑張ってください。」とお祝いの言葉をもらうとお年寄りの方々は、各々目を細め、うなづいていました。

式典の後、民踊同好会、民謡同好会によるアトラクションが行われ、歌や踊りに盛大な拍手を送りました。



九月定例町議会

一般会計の総額三十一億五千万円に

・十案件を可決・

町営住宅条例の一部を改正
天王町町営住宅条例の一部を改正する条例について審議され原案どおり可決された。

これは、公営住宅法施行令の一部改正にともない、条例の関係部分を改正したものである。

それによると、従来入居者の資格として「現に同居し、又は同居しようとする親族（婚姻の届出をしないか実事上婚姻関係と同様の事情にある者、その他婚姻の予約者を含む）があること」。・となつていたが、たゞ次に掲げる者（身体上または精神上著しい欠陥があるため常時の介護を必要とする者で、その公営住宅への入居がその者の実情に照らし、適切でないと認められたものを除く）にあつては単身人居を認めることがたるものである。

九月二十四日、九月定例議会が開かれた。

当日、会期を二十四日、二十五日の二日間と決め、町長の行政報告、議員の国内、海外の研修報告がなされた。

続いて、各常任委員会の報告、一般質問が行われ、その後議案審議に入った。

今回提出された案件は、昭和五十五年度天王町一般会計補正予算案などの十案件で、原案どおり可決された。

建設に関する工事請負費一千十五万円、教材などの備品購入費と一千三百五十万円。

また、園児増による天王幼稚園の遊戯室新築工事費三千百万円などである。

十五万円となつた。

これは、追分地区事業費の公債費一時借入金の利子、百十二万三千円が主なものである。

昭和五十五年度天王町簡易水道事業特別会計に、百二十九万円を増額、歳入歳出予算の総額に、九百七十七万円を

増額、歳入歳出予算の総額が、それぞれ六千五百五十二万一千円となつた。これは、管渠布設工事費九百八十三万円が主なものである。

出戸浜少年ラグビーチームから施行されます。

渋谷氏は、昭和四十三年に天王町教育委員会教育長に就任、十二年余カ月にわたり町行政発展にご尽力されました。

渋谷氏は、直面目で実直な人柄で職員はもとより町民からも親われてきました。

氏の長年のご労苦と、今後のご多幸をお祈りいたしま

す。

簡水事業に

百二十九万円を補正

下水道事業にも補正

昭和五十五年度天王町公共下水道事業特別会計の歳入歳出予算の総額に、九百七十七万円を増額、歳入歳出予算の総額が、それぞれ一億七千五百四

増額、歳入歳出予算の総額が、それぞれ六千五百五十二万一千円となつた。これは、管渠布設工事費九百八十三万円が主なものである。

海外からの引揚者で、本邦に引き揚げた日から起算して五年を経過していない者：でこの条例は、昭和五十五年十月一日から施行されます。

渋谷氏は、昭和五十一年には町助役に就任、十二年余カ月にわたり町行政発展にご尽力されました。

渋谷氏は、直面目で実直な人柄で職員はもとより町民からも親われてきました。

氏の長年のご労苦と、今後のご多幸をお祈りいたしま

す。



町営住宅条例の一部を改正

上の者（女子については五十歳）

長い間ご苦労様

渋谷助役退職

九月二十四日、九月定例議会が開かれた。

当日、会期を二十四日、二十五日の二日間と決め、町長の行政報告、議員の国内、海外の研修報告がなされた。

続いて、各常任委員会の報告、一般質問が行われ、その後議案審議に入った。

今回提出された案件は、昭和五十五年度天王町一般会計補正予算案などの十案件で、原案どおり可決された。

十五万円となつた。

これは、追分地区事業費の公債費一時借入金の利子、百十二万三千円が主なものである。

昭和五十五年度天王町簡易水道事業特別会計に、百二十九万円を増額、歳入歳出予算の総額に、九百七十七万円を増額、歳入歳出予算の総額が、それぞれ六千五百五十二万一千円となつた。これは、管渠布設工事費九百八十三万円が主なものである。

海外からの引揚者で、本邦に

恩給法、別表第一号表の二の特

別項症から第六項症まで、また

は同法別表第一号表の三の第一

款症であるもの。

原子爆弾被

害者、戦傷病手帳の交付を受けてい

る者で、身体上の障害の程度が身

体障害者福祉法施行規則、別表

第五号の一級から四級までであ

るもの。

戦傷病者特別援護法

で戦傷病手帳に身体上の障害が

あるものとして記載されている

者で、身体上の障害の程度が身

体障害者福祉法施行規則、別表

第五号の一級から四級までであ

るもの。

戦傷病者特別援護法

で戦傷病手帳の交付を受けてい

る者で、身体上の障害の程度が身

体障害者福祉法施行規則、別表

第五号の一級から四級までであ

るもの。



ちょっと “ひとつ”

石けんと合成洗剤

日頃、何気なく使っている合成洗剤も、その中に含まれるチッソ、リン、カリ等が川や海に流れることで水草や藻、それにプランクトンなどが増えすぎ、海や川を汚す原因となることから、使用を禁止する都道府県が増えています。

なかでも滋賀県では、水源地となっている琵琶湖が赤潮になる等の被害があつ

たため、昭和54年10月「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」が公布され、今年の7月から合成洗剤を一切使ってはならない事となりました。違反して合成洗剤を売った者からは、10万円以下の罰金を取るという厳しいものです。

合成洗剤は、人に害はないというものの、マウスの実験で奇形仔が生まれたという報告もあり、今なお安全性について論議されている段階です。

石けんは、合成洗剤に比べると便利さや、経済的面で問題は残されていますが、今一度石けんへの見なおしが必要なときだと思います。

お知らせ

▷ 1 歲半健康診查

- ・と き 10月24日(金)
 - ・対 象 S54.3月生まれ
 - ・受 付 午後1時～
1時30分

▷ 到處健康診查

- ・とき 10月15日(水)
 ・対象 S54.5月生まれ
 ・受付 午後1時～
 1時30分
 ・対象 S54.7月生まれ
 ・受付 午後1時30分
 ～2時

△離乳食教室

- ・と き 10月15日(水)
 - ・対 象 S54.1月生まれ
 - ・受 付 午後10時～
10時30分
 - ・開催時間 午前10時30分
から11時30分ま
で、保健所栄養
士により行いま
す

※各健康診査、及び教室は
いずれも町公民館が会場
です。



相撲（個人二十代）
陸上（三十代）
小石浦俊也
野仁也
陸上（五十年代）

県民スポーツ大会

豪本莊チームと対戦、前半三対一とリードされたが、後半逆々に得点を重ね、七対四とリードそのまま逃げ切った。決勝では広面チームを危げない試合運びで、優勝した。

九月六日、天王町老人スポソ大会が天王中学校サッカー場を会場に行われ

にボーグをはさんでリレーする姿は、まさに『ベンギン』そつくり、ユーモラスな姿に場内は大爆笑に包まれた。

天王町短歌会（八月分）

天王 米谷 冬華
積み木の子継げば崩れる雲の峰
塩口 桜庭与三郎
七夕やまだ指折つて句をつくる
天王 京谷 郷愁
青飄ひねくり曲り雨に濡れ
追分西 鶴谷 トシ
肺活量計られて来し夏怒涛
下出戸 佐々木汀月
草むらの一花に沈める夏の蝶
二田 璠峨 菅子
うき草の池に広がり鯉暗む
追分 藤原 邦
遠太鼓うちわ止めさす蚊帳の中
上北野 佐藤せいこ
竹やぶに鈴虫放つ夜ふけかな
追分 安田 鹿山
汗拭くや孫の匂殘るバスタオル



天王俳句会（九月分）

| 天王町短歌会（八月分） | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 追分 | 佐藤 金 |
| わがふるさとはおもむきありき | アカシヤの若葉に藤の花添いて |
| 追分 池端 キサ | わがふるさとはおもむきありき |
| 敗戦地に背の子を守りにげ悪い | 江川 伊藤テツエ |
| し盛夏のたびにのがき想い出 | 汗くさき乳房むさぼり吸ふ子等 |
| 冷夏の稻は揺れて小さし | の頃思いおりシャワー浴びつゝ |
| 二田 真壁 キサ | さいはての北海の地の旅に見し |
| 追分 藤田 光 | 茶を汲む庭に朝顔 <small>あな</small> |
| 憂いなき日々にあらねど老妻と | 本持てば忽ち睡魔におそわれし |
| 茶を汲む庭に朝顔 <small>あな</small> | 我が生業の歌は寂しき |
| 羽立 鈴木 秀夫 | 餅好きの義母 <small>はは</small> の新精靈迎えんと |
| 本持てば忽ち睡魔におそわれし | こつり甘きおはぎ作りぬ |
| 我が生業の歌は寂しき | |
| 二田 三浦 絹子 | |

国民年金

知っていますか？

年一回は現況届

年金の
受給者

☆年金の受給者が知つておかなればならないこと

☆現況届を出すこと。住所や氏名を変更したときには、届出ることです。

現況届は、引き続き年金を受から送付されます。

楽焼教室を開設

生徒募集

町公民館では、次により楽焼

教室を行います。

△前期 十月十四日、十五日

△後期 十一月一日、二日

(午前九時三十分し午後三時三十分)

参加申し込みは、十月六日ま

でに町公民館へ(三十名にな

りし大い締めります。)

○昼食は、各自持参のこと。

なお、参加者は前、後期参加

できる方に限ります。

俳句

「八坂神社の十月」

渡辺 六愁

参詣の足音すでに寂びし秋

参道に陽の廻りきて天高し

石燈に棲む虫鳴けぬ身で生れ

参堂をそれなる敷に寝ちらる

宮板間隙だらけや秋日洩る

成就せる絵馬か十月の杜光る

秋空を掃く大櫻神の鞭

散策の靴に踏まるるこぼれ萩

課(○一八八一六〇一七三三)か、もしくは秋田県職業能力開

けるために必要で、おもに生存の確認。この届の提出先は年金の種類で違っています。

まず、老齢年金と通算老齢年金の受給者は社会保険庁提出

時期は毎年「誕生日」です。

現況届の用紙は、社会保険庁

用紙は、役場国民年金係にあ

ります。

行政相談を次により開設しま

す。

行政相談は、常日ごろいだい

ておられる役所の仕事について

お困りになつてること

納得のいかないこと

希望したことなどをして

無料で迅速しかも秘密を守つて行います。

と、とき 十月十三日(月)

午前十時し午後三時

。ところ 天王町役場町民室

▽行政相談員 天王町天王字羽立

安田慶太郎

(電二七三三)

▽受付 昭和五十五年十

月一日~十三日

土に帰すということが良しとし

ながらも、例年稻ワラを焼く農

家が後をたちません。

▽募集人員 四十五名

一先着順

遠野をたずねて

民俗学の発祥地であり、豊か

な自然に囲まれた遠野にロマン

を求め、文学散歩を次により行

ないます。

▽実施月日 十月二十五日

二十六日

▽宿泊地 台温泉ホテル仁

一六、〇〇〇円

十月九日(木)まで

に町公民館へ

持長根 不動台

上江川 長沼 宮の後

長 沼 長 長 長 女 長 長 長

柳 進 城 政 義 美 敏

智 聰 佳 子

久美子

八月中

羽立北野

ハラヘ 松 渕

塩口北野

天 王 塩 口

二 田 大 三 男

敬一郎 喜太郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

勝 四 郎

拓 誠

敬一郎

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋 哉 司

樹 雄 宏 昭 邦 人

美 樹 美

喜 太 郎

均 介

秋